

令和4年度
ーアンコンシャス・バイアスー
性別による無意識の思い込み
実態調査結果について
(概要)

令和5年3月
東京都生活文化スポーツ局

I 調査の概要

1 調査概要・目的

「無意識の思い込み」(アンコンシャス・バイアス)は、本人が意識しないところで行動や意思決定に影響を与えている。性別による「無意識の思い込み」は周囲の言動の影響を受け形成されるとの仮説に基づき、その実態を把握するため、教育機関と連携し、児童(小学校5・6年生)、保護者、教員を対象とした実態調査を行った。効果的な啓発方法や子どもの進路・職業の選択肢拡大に向けた施策検討につなげることを目的とした。

2 調査設計

【対象】 都内公立小学校の児童(5・6年生)、保護者、教員

【対象者数】 児童10,020人(回答者数6,622人)、保護者10,020人(同2,174人)、教員1,827人(同899人)

【標本抽出】 学校名簿から対象の学校を無作為抽出し、抽出した学校に在籍している児童・教員の全員及び児童の保護者(児童1名に対して保護者1名)を対象とした

3 調査結果ポイント

ポイント① 「男性/女性だからと思うことがある」という意識は、自身の言動に影響(A,C)を与えている

ポイント② 周囲の大人の発言は、子どもの性別に対する意識の形成に影響(B)を与えている

ポイント③ 職業に対して、性別による向き・不向きがあるという意識は、大人にも子どもにも多く見られた

【仮説のイメージ】

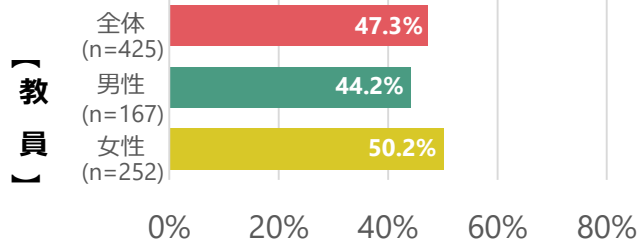
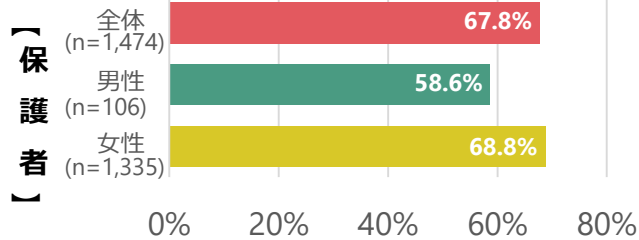
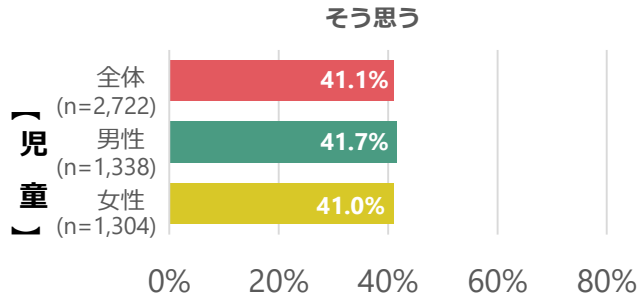


Ⅱ 分析結果

分析は、「そう思う」「どちらかというそう思う」を「そう思う」、
「あてはまる」「どちらかというあてはまる」を「あてはまる」と集計したうえで実施。
本資料では「そう思う」、「あてはまる」の人数及び数値を示している。

4 児童・保護者・教員の共通質問の結果

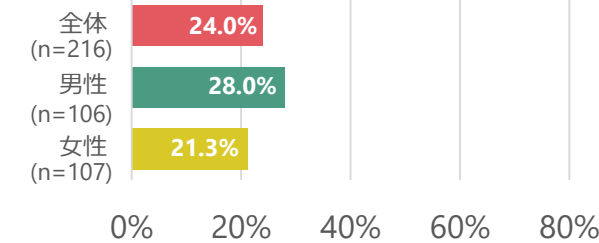
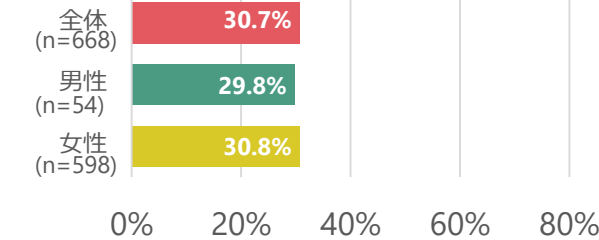
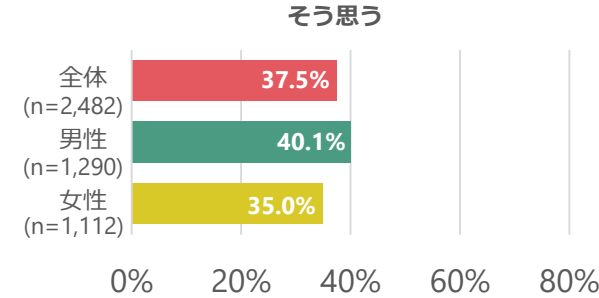
【設問①】「男の子（男性）/女の子（女性）だからと思うことがある」



- 結果
- どの属性でも4割以上
 - 特に、保護者（女性）が「そう思う」割合が高い

※詳細は調査報告書P288参照

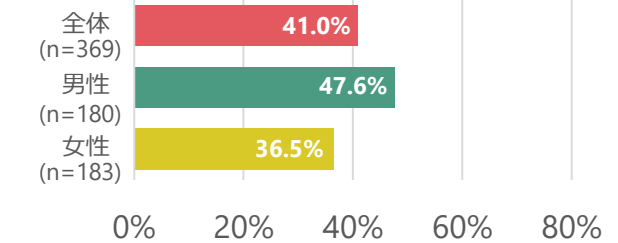
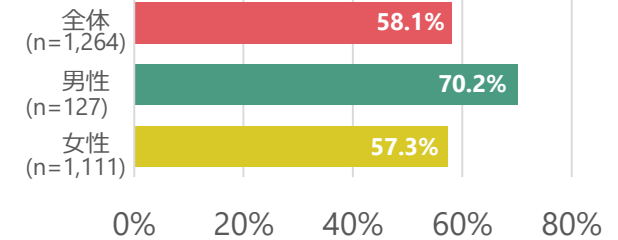
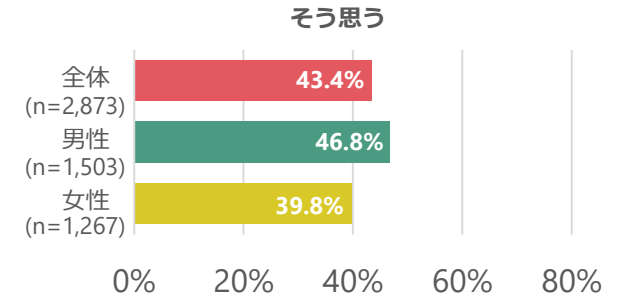
【設問②】「性別で教科の得意、不得意がらと思う」



- 結果
- 保護者・教員と比べ、児童が「そう思う」割合が高い

※詳細は調査報告書P289参照

【設問③】「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」



- 結果
- どの属性でも男性が4割以上
 - 特に、保護者（男性）が「そう思う」割合が高い

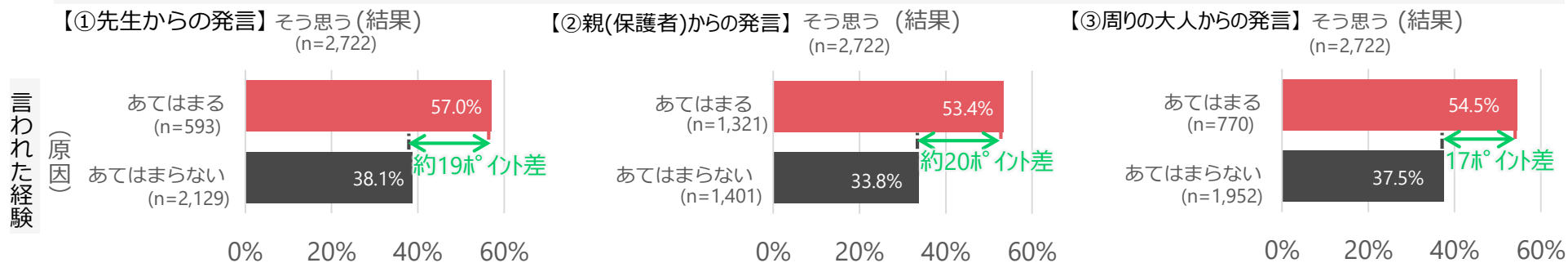
※詳細は調査報告書P290参照

5 児童の分析結果

【仮説】 周囲の大人の発言は「男の子/女の子だからと思う」という児童の意識に影響があるか

(原因：言われた経験)『「男の子/女の子だから」と①先生/②親(保護者)/③周りの大人に言われたことがある』
 × (結果：性別に対する意識)「男の子/女の子だからと思うことがある」

性別に対する意識



結果

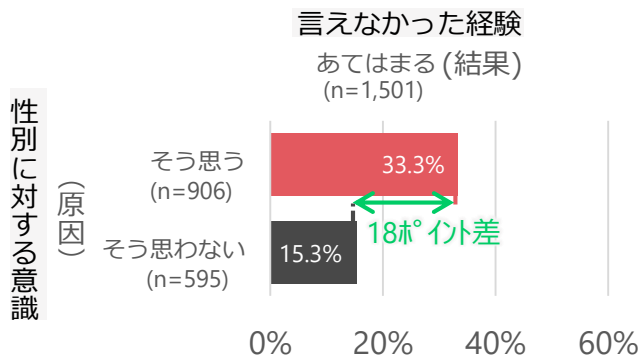
先生・親(保護者)・周りの大人から「言われた経験」がある児童のほうが、いずれも「男の子/女の子だから」と思う傾向がある。

➤ **児童が周囲の大人から“性別を理由とした発言”を受けることで、児童の性別に対する意識に影響があることがみられた。**

※詳細は調査報告書P160～162参照

【仮説】 児童が「男の子/女の子だからと思う」ことは、児童自身の言動に影響があるか

(原因：性別に対する意識)「男の子/女の子だからと思うことがある」 × (結果：言えなかった経験)「性別を理由に、思ったことがいえなかったことがある」



結果

「男の子/女の子だから」と思う児童のほうが、性別を理由に、「思ったことがいえなかった」ことがある傾向がある。

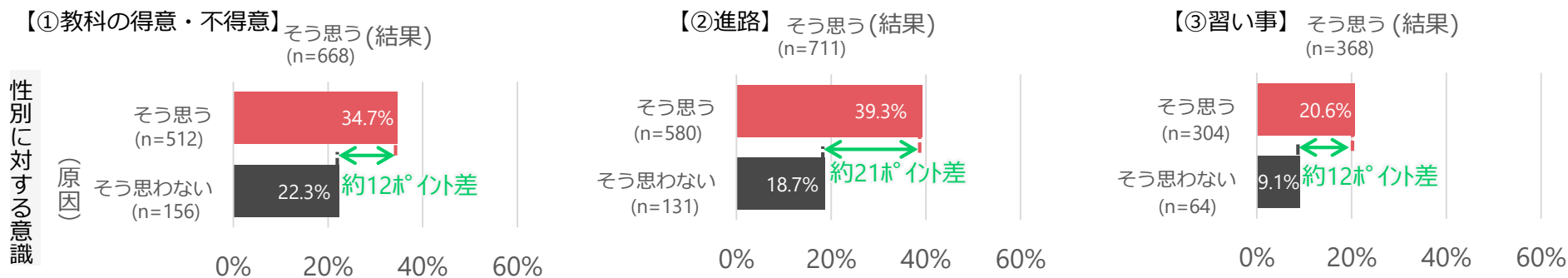
➤ **児童が“男の子/女の子だからと思うこと”で、児童自身の言動に影響があることがみられた。**

※詳細は調査報告書P151参照

【仮説】 保護者が「男性/女性だからと思う」ことは、子どもの進路選択等に関する意識に影響があるか

(原因：性別に対する意識)「男性/女性だからと思うことがある」 × (結果：進路選択等に関すること)「①性別で教科の得意、不得意があると思う」
「②性別で子どもの進路を考えることがある」
「③性別で子どもの習い事を選んでいる」

進路選択等に関すること



「男性/女性だから」と思う保護者のほうが、子どもの「進路選択等に関する」設問のいずれにも性別による思い込みのある回答をする傾向がある。

結果

➤ **保護者が“男性/女性だからと思うこと”で、「子どもの進路選択等に関する意識」に影響があることがみられた。**

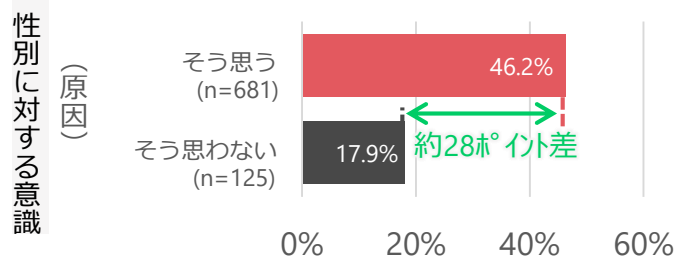
※詳細は調査報告書P165～167参照

【仮説】 「男性/女性だからと思う」ことは、子どもに対する言動に影響があるか

(原因：性別に対する意識)『「男性/女性なんだから」と思うことがある』 × (結果：子どもに対する発言)『「男の子/女の子なんだから」と子どもに言うことがある』

子どもに対する発言

あてはまる (結果)
(n=806)



結果

「男性/女性だから」と思う保護者のほうが、子どもに対しても「性別を理由とした発言」をする傾向がある。

➤ **保護者が“男性/女性だからと思う”ことで、子どもへの発言に影響があることがみられた。**

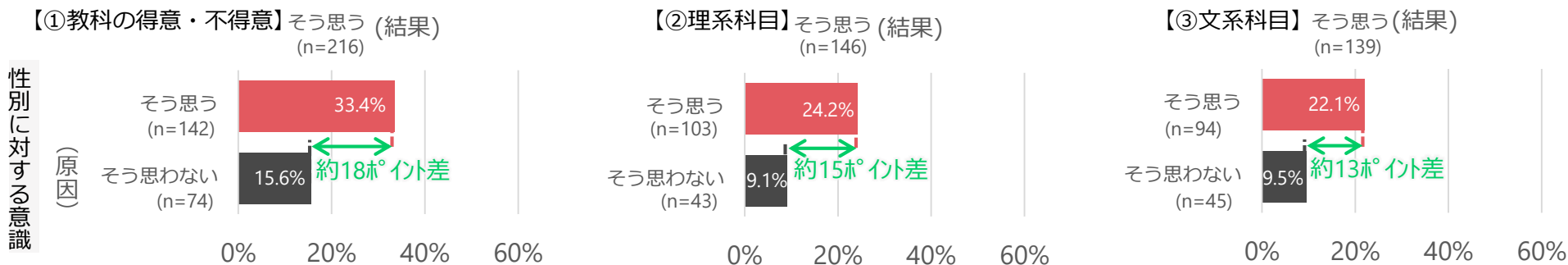
※詳細は調査報告書P175参照

7 教員の分析結果

【仮説】 「男性/女性だからと思う」ことが、児童の教科の得意・不得意に対する意識に影響があるか

(原因：性別に対する意識) 「男性/女性だからと思うことがある」 × (結果：教科の得意・不得意に関すること) 「①性別で教科の得意、不得意があると思う」
「②理系科目は男の子の方が得意だと思う」
「③文系科目は女の子の方が得意だと思う」

教科の得意・不得意に関すること



結果

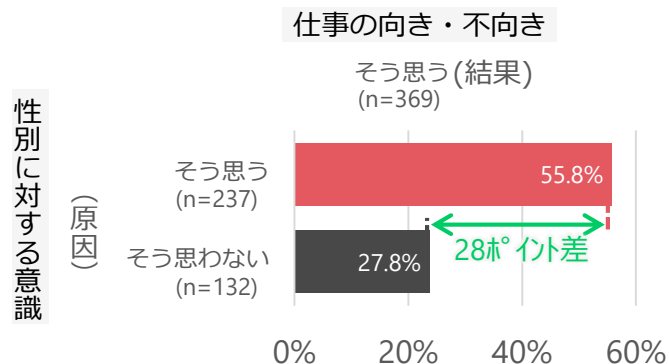
「男性/女性だから」と思う教員のほうが、児童の「進路選択等に関する」設問のいずれにも性別による思い込みのある回答をする傾向がある。

➤ **教員が“男性/女性だからと思う”ことで、児童の「教科の得意・不得意に関する意識」に影響があることがみられた。**

※詳細は調査報告書P233～235参照

【仮説】 「男性/女性だからと思う」ことが、児童の将来の仕事への向き・不向きに関する意識に影響があるか

(原因：性別に対する意識) 『「男性/女性なんだから」と思うことがある』 × (結果：仕事の向き・不向き) 「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」



結果

「男性/女性だから」と思う教員のほうが、性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う傾向がある。

➤ **教員が“男性/女性だからと思う”ことで、児童の「仕事について性別で向き・不向きがある」という考えに影響があることがみられた。**

※詳細は調査報告書P239参照

8 今後の方針

- ✓ 周囲の大人の言動が子どもに影響を与えていること、子ども自身にも一定の「思い込み」が見られたことから、大人と子ども双方に働きかける取組を推進
- ✓ 子どもの将来の仕事に対する「性別による思い込み」も見られたため、この「思い込み」へのアプローチも推進

<参考1 主な調査項目>

■ 児童（7問）

①自身に関すること

■ 保護者（20問）

①家庭に関すること

②教員に関すること

③児童に関すること

④無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度など

■ 教員（37問）

①自身のキャリア・生活について

②校務など教員の職務に関すること

③児童に関すること

④保護者に関すること

⑤無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度など

<参考2 調査実施時に配布したプリント>

（児童・保護者へ配布）

—アンコンシャス・バイアス—
無意識の思い込みってなんだろう？

どんな人を思うか？

✓ 青色がすき	✓ ピンク色が好き
✓ 昆虫が大好き	✓ おしゃべりが大好き
✓ スポーツが得意	✓ お菓子作りが得意

男の子？ 女の子？

実は、
この情報だけでは男の子か女の子か分かりません。
昆虫が好きな女の子も、お菓子作りが得意な男の子もいます。
好きな色も一人ひとり違います。

このように、いろいろな情報から、自分や相手、物事を、「きっとこうだ」と思い込んだり、決めつけてしまうことを無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)といいます。

無意識の思い込みがあるとどうなるの？

思い込みや決めつけて行動してしまうと、気づかない間に友達を傷つけてしまっていたり、チャレンジするチャンスを逃したりしてしまうことがあります。

無意識の思い込みは大人にも子どもにも誰にでもあるものです。お家の人とも話し合ってみてね！

※詳細は調査報告書（生活文化スポーツ局HP掲載）をご覧ください。

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/danjo/wlb_top/0000001841.html

